

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 令和5年2月28日

事業所名: 放課後等デイサービスフェローIntech

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	○			テーブルの配置をその時々状況に合わせて工夫している。体調不良児が出た場合の待機場所が足りない。	24	4	0	5	一人1台のPCと机があるため十分と思われず。もう少し広いとより良いと思う。コロナも落ち着いたら、普段の活動スペースなど見学できたら。	室内のレイアウトが最適か定期的に見直し、十分なスペースの確保に努める。
	2 職員の適切な配置	○			スタッフの負担軽減の為、非常勤のアルバイトさんにも加わってもらっている。	25	3	0	5		その日の利用人数やメンバーを余裕を持って確認しながら、適切な人員配置を行っていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備		○		視覚支援など環境的な配慮をもっと取り入れる必要があると思う。	28	0	0	5	施設の中をあまり見たことがなく、子供から部屋の環境の話は聞かないのでわからない。	車椅子児童に対するスペース確保など、一人ひとりの特性に合わせた環境整備を改めて行っていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	○			コロナ流行に伴い、室内(机・椅子など)や機器の掃除や消毒は以前よりも徹底されている。	24	4	0	5	子供からは、とても楽しいとよく聞かされています。	消毒や換気など引き続き取り組みながら、子ども達や職員の安全確保に努める。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	○			方針・計画を自分達で立てている。また、部署会議を通して話し合いや振り返りを行っている。	/	/	/	/	/	振り返って終わりにせず、目標やスケジュールの再設定を行い課題解決に努める習慣をつくる。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			○	第三者からの外部評価は取り入れていない。	/	/	/	/	/	
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	○			社内での虐待防止等の研修のみならず、外部研修にも積極的に参加し、支援の質を高めている。	/	/	/	/	/	担当による積極的な案内に加え、自分達からも受講したい研修情報を集めて自己研鑽に努めていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	○			モニタリングを行い、それぞれの課題を解決できるように個別支援計画を作成している。相談員さんとのお話も大切にしながら、行っている。	33	0	0	0	モニタリングで話を伺って、子供のことを十分に見てくれていると感じます。	お電話でのモニタリングが中心になっているが、対面してじっくりお話ができる機会も増やしていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	○			ニーズを詳しく確認するためのモニタリングや、日々の会話を取り入れている。	33	0	0	0		研修で学んだ手法や支援内容も取り入れながら、本人に合った活動の立案や支援の幅を拡げていく。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	○			本人たちが将来困らない様な活動への支援を意識して取り入れている。	/	/	/	/	/	子ども達の情報をスタッフ間でこまめに共有できる機会をつくり、計画の作成の質を高めていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
適切な支援の提供（続き）	4		○		状況が変化する中での対応が間に合わない事がある。	32	1	0	0	作成した支援計画を見返しながら支援をすることができるように、保管方法や情報共有の仕方を改善する。	
	5	○			部署ミーティングにてプログラムについて話し合い、全員のアイデアを取り入れている。					大まかな計画は全体で決め、各自の得意を活かして細かく役割を設定する様にしていけるように改善していく。	
	6	○			新しいイベントや、今年から検定開催も取り入れ、本人たちが意欲を持って取り組める方法を考えている。	27	4	0	2	いつも子供のペースに出来るだけ合わせてくださっており感謝しています。	引き続き、新しい活動案のアイデアを出し合いながら、定期的に導入していく。
	7		○		やるべき流れは決めているが、本人達の意欲を引き出せていない場合があるため、細やかさを改善したい。						平日の通常活動が一番固定化しやすいため、カリキュラムの改善に力を入れていく。
	8		○		その日の特記事項の共有や担当決めが不十分な場合がある。						申送り・部署ミーティングを定期的に継続していく。 (集まるのが難しい場合はLINEワークスを活用する。)
	9	○			出来事について内容把握の共有を行い、課題や改善を話し合っている。集まるのが難しい際はLINEワークスを活用し共有している。						申送り・部署ミーティングを定期的に継続していく。 (集まるのが難しい場合はLINEワークスを活用する。)
	10		○		日々の支援記録について、作成に留まらずもっと検証・改善についての話し合いは増やしていきたい。						申送り・部署ミーティングを定期的に継続していく。 (集まるのが難しい場合はLINEワークスを活用する。)
	11	○			モニタリング後の担当者会議をみんな揃って行きより充実させたい。						半年以内であっても、最適なタイミングでのモニタリング・計画見直しを行っていく。
関係機関との連携	1	○			できる限り、技術指導担当者と児発管が参加できる様にしている。						先方からの要請に応じるだけでなく、こちらからも関係者さんに働きかけ、担当者会の開催について相談する。
	2				現在、医療的ケアが必要な児童はいない。						該当者なし

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
関係機関との連携（続き）	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備				現在、医療的ケアが必要な児童はいない。						該当者なし	
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有		○		学校との連携は取れているが、細かくお話しする機会が少ないため増やしていきたいと思う。						随時、必要な関係機関との連携をこちらからも図っていく。	
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供		○		利用状況など、相談員さんからお聞きしたり、保護者さんからお聞きする事はあるが、改めては少ないので、連携していきたい。						随時、必要な関係機関との連携をこちらからも図っていく。	
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進		○		連携ができているとは言えないが、専門機関からの研修情報に関しては積極的に受講を案内している。						今後も研修等のイベントには積極的に参加しながら、連携できる関係を築いていく。	
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供			○	地域の子どもたちと外出時に活動を共にする事はある程度。	7	8	3	15	KIDS、ラボとのコラボは聞かすが、外の交流はまだ体験していないと思われる。	各関係機関や地域にも案内しやすいようなイベント(秋祭りや展示会等)の開催ができるよう機会を作る。	
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営		○		ハロウィンイベントなどは地域の子どもが参加することがあった。						助成金事業等も活用しながら、地域へより広く情報を発信し、活動に参加してもらえる機会をつくる。	
	保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明		○		契約時や負担額変更時に説明は行っているつもりだが、周知徹底はできていない。	28	3	0	2	利用者負担の説明は書類だけだったような。職員から直接の言葉の説明はない。	契約時など保護者さんと直接お話ができる機会に、口頭でのより丁寧な説明を心掛ける。
		2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		○		直接お会いできない場合は、メールや手紙などで説明を補足するようにしています。	26	3	1	3		引き続き、計画作成時にはきちんと合意が取れるように、分かりやすく丁寧な説明を心掛ける。
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施				○	モニタリング時に相談を受けたことに対して助言を行ってはいるが、ペアレントトレーニングとしては、不十分だと感じる。	13	7	5	8	コロナなのでしかたない。オンラインなどで開催していただけると嬉しいです。モニタリングで伺った内容のことを指しているのであれば、ペアレントトレーニングは行われていると考える。	コロナ感染等の社会状況も鑑みつつ、オンラインなど活用してできる方法を考えながら実施を検討する。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	○			日々の様子や状況については必ず連絡帳でお伝えし、加えて気になることがあった際には電話での相談を徹底している。	31	1	0	1		スタッフ間での情報共有を強化し、どの職員でもそれぞれのお子様の状況や課題について、丁寧にお話できるようにしていく。
	5	○			親御さんから相談を受けた際には部署内で共有し、助言を行っている。	26	6	0	1	コロナでなかなか機会はないのですが、送迎時にお話できるのはいいと思います。	モニタリング時以外にも積極的にこちらからご家庭のお話を伺うことで、相談援助ができる機会を増やしていく。
	6			○	以前は実施していた保護者会が、この数年実施できないままとなっている。	5	6	10	12	父母会があることを存じませんでした。他の保護者とは関りが無い。	コロナ感染等の社会状況も鑑みつつ、オンラインなど活用しできる方法を考えながら実施を検討する。
	7	○			苦情を受けた際には必ず社内に共有し、迅速に対応できるよう協議しながら進めた。	22	2	0	9	適切に対応されていると思います（体験談あり）。	同じクレームを繰り返すことのないように、その後の対策について目に見える形での記録・周知に努める。
	8	○			日々のやり取りについては連絡帳やメールで情報が残る形で伝えている。視覚支援ツールの活用はまだ不十分。	30	1	0	2		目で見て分かりやすい形での情報伝達の仕方や活用できるツールを増やしていく。
	9	○			写真や動画を掲載しながら、より子ども達の活動の様子が保護者に伝わるように工夫を行った。	32	0	0	1		引き続き、保護者や関係者にとって分かりやすい情報発信を行っていく。今期中にホームページのリニューアルも行う予定。
	10	○			契約時に加え、毎年年度替わりの時期に個人情報掲載に関する希望調査を実施している。	27	3	0	3		今後も継続して希望調査を行い、特に外部に向け情報を出す場合には改めて合意が取れるようにする。
非常時等の対応	1	○			マニュアルの策定は行っているが、実際に行っている対策については不十分。	24	4	2	3	避難訓練の日に活動がある児童のみで周知の徹底は薄い。契約時以外では特に見聞きはしていない。	策定しているマニュアルを元に、スタッフ間で対策を話し合える機会を作る。また、保護者への周知ができる方法について検討する。
	2	○			年に2回避難訓練の実施を徹底している。また、子ども達とのイベントとして防災センターも訪問し学びの機会を増やした。	27	2	0	4	子供から話を聞かないのでよくわからない。	引き続き、避難訓練の機会を重ねながら、より多様な災害のパターンで訓練ができるよう内容を検討する。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
非常時等の 対応（ 続き）	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	○			虐待防止委員会を設置し、定期的に（2か月に一回ペース）研修を実施している。						引き続き、虐待防止のための研修を継続して行く。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	○			個別支援計画への記載を徹底している。						個別支援計画への記載を徹底し、どのような場面で起こりえるかの説明を行う。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	○			契約時の聞き取りでアレルギー情報を把握。料理イベントの際などの配慮に繋げている。						契約時の聞き取りに加え、モニタリング時などを活用し服薬やアレルギー情報についても定期的に確認。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底		○		事故やトラブルがあった際にはヒヤリハット報告書を作成し、対策についても話し合っている。						報告して終わりにならないように、事例を活用しながらのケーススタディを実施していく。